



港北区青少年指導員協議会広報紙

港北青指

 第 50 号
 令和 6 年 3 月 発行

 発行所 港北区青少年指導員協議会
 編集 広報委員会
 事務局 港北区大豆戸町26-1
 港北区役所地域振興課内
 TEL 045-540-2239
 FAX 045-540-2245

吉田港北区青少年指導員協議会会長・漆原港北区長対談

区長 吉田会長は、青少年指導員として20年近く活躍されていらっしゃるようですが、始められた経緯はどういったものだったのでしょうか。

会長 当時は町内会の会計を担当しており、その時の町内会長にお声掛けいただいたことがきっかけです。当初は青少年指導員について何も知らず戸惑いましたが、前任の方がご年齢ということもあり、お役に立てればという気持ちで引き受けました。

区長 子どもと接する場面が多いかと思いますが、接し方で工夫されているようなことはありますか。

会長 威圧的にならないよう、友達と会話するような感覚で直接コミュニケーションを取ることを意識しています。文章だけだと本意が伝わらない場面も多いですからね。SNSなども上手く活用すればより良いツールとなると思いますが、本意が伝わらない場合は良い方向に向かう可能性があるので気を付けています。

区長 直接対面して会話をしたり、体験したりすることの重要性を感じますね。仕事をしていても、文章だけでは伝わらないことがあるので、私も職員にはメールだけでなく電話か直接赴いて話をするよう伝えています。

青少年指導員が行っているイベントは対面を重要視しているように感じます。コロナ禍を経た子どもたちにとっては大変重要なことだと思います。

青少年指導員のイベントといえばペットボトルロケット大会ですが大盛況でしたね。他に類を見ない盛り上がりでしたね。

会長 ありがとうございます。やむを得ず中止したこともありましたが、26年間続いている地域に根付いたイベントです。ただ課題もあり、変えていきたいという意見も内部からも出ているため、現在こういった形が良いのか検討しています。

区長 変えるにしてもこれまで培われたペットボトルロケット大会の経験を上手く活かしていただき、多くの区民が楽しめるイベントにしていきたいと思っております。



会長 これまでの歴史を尊重しつつ、時代のニーズに合った内容に転換できるように、青少年指導員が一丸となって検討します。

区長 行政としても「青少年と地域の方との顔の見える関係づくり（繋がり）」を重視しており、青少年指導員協議会の皆様と共に考えていきたいと思っています。令和6年4月から第29期の青少年指導員活動が開始となりますが、引き続きご協力をお願いします。

会長 我々も行政と連携が図れるよう頑張ります。これからもよろしくお願ひします。

(令和5年12月21日実施)

横浜市青少年指導員研修会

令和5年9月16日(土)西公会堂にて令和5年度横浜市青少年指導員研修会が開催されました。

横浜市各区から400名を超える青少年指導員が参加し、青少年指導員としての知識習得、資質の向上を目的に、事業紹介や基調講演が行われました。

前半は今大会の開催区である西区青少年指導員協議会から事業紹介がありました。

西区では紙ヒコーキ大会が大きなイベントになっており、各地区の予選大会を経て3月に本選大会が行われているようです。港北区は樽町公園でペットボトルロケット大会を行っていますが、天候が悩みのタネ。紙ヒコーキ大会は体育館を使用しているため、天候に左右されず開催できるのが良いですね。

後半は「青少年との話し方・笑いを引き出す話し方」との演題で、落語家の桂歌助氏による講演でした。

落語ならではの視点で、子どもたちとの接し方や、笑いを引き出す方法について、教えていただきました。

流石に噺家だけあって、ダジャレや謎かけを交えた語り口で、聴衆の皆さんを引きつけていました。

次回は泉区での開催です。



神奈川県青少年指導員大会

令和5年11月12日(日)に神奈川県青少年指導員大会が松田町で開催されました。

開成町阿波おどりがオープニングを飾り、事例発表では、小田原市と南足柄市での活動事例が発表されました。

小田原市では史跡などのロゲイニングポイントを巡り、指定された条件の通りに写真撮影し、ゴールするまでの時間を競う小田原城ロゲイニング大会を報告。南足柄市はジュニアリーダーズクラブメンバーの勧誘について工夫している点などが報告されました。

講演では、荒木信広氏による「ダークサイドから子ども達を守る」をテーマに、ご自身の経験を踏まえ、様々な危険に直面しやすい子どもたちの現状や、大人たちに求められる対応など、青少年指導員としての役割の重要性を改めて認識する内容でした。





第13回自然体験教室

長井海の手公園・ソレイユの丘

令和5年9月23日(秋分の日) 港北区青少年指導員協議会は区内の子どもたち66名を引率し「長井海の手公園・ソレイユの丘」において自然体験教室を開催しました。

区役所広場で開会式を行い、大型バス2台に分乗し出発。

現地到着までは心配になるほどの怪しい空模様でしたが現地では「暑さをしのぐには最適」な状況まで回復。

オリエンテーション・集合写真撮影後早速「万華鏡作り」「フォトラリー」を体験しました。



各地区参加者数

日吉 6人(2人)	綱島 7人(2人)	大管根 4人(3人)
榑町 6人(2人)	菊名 9人(3人)	餅岡 4人(1人)
大倉山 5人(2人)	篠原 3人(1人)	城郷 5人(2人)
新吉田 8人(3人)	新吉田あすなろ 4人(2人)	高田 5人(2人)

※()内は青少年指導員人数



第26回ペットボトルロケット大会!!



令和5年11月3日(文化の日) 天気晴朗かつ微風の中、鶴見川榑町公園にて第26回ペットボトルロケット大会が開催されました。

「飛距離部門」と「デザイン部門」の2部門で競われ、今年はデザイン部門では新綱島駅完成を祝し特別賞「しんつなしま賞」が用意されました。

子どもたちは各地区の作製会で作った自慢のロケットを持ち寄り、期待を胸に大会に臨みました。

今年は綱島地区がダントツの躍進で、上位5機中3機が綱島地区とほぼ独占状態!

またデザイン部門では例年以上の凝ったデザインの作品が多く出品され、大盛況でした。



§1 飛距離部門 (参加者: 185人)

自慢のロケットを各地区用意の発射台にセッティング。
空気注入20回(小さい子はお手伝いお願いします)をして発射を待ちます。



クラフト体験 万華鏡作り

園内クラフト体験工房にて「万華鏡作り」をしました。
講師の説明後みんなで助け合いながら「万華鏡」を作りました。
思いのほかの出来栄えにみんな大喜びでした。



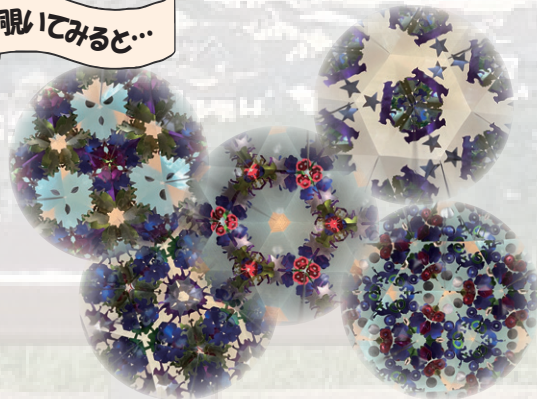
真剣に説明を聞いています

お昼

お昼は雨に濡れないように屋根のある「レイクサイドステージ」で「ロック演奏付き昼食」でした。



覗いてみると...



真剣に製作中

出来た！見て！



発射!!

発射シーン3連続

トー



飛ばすには
おいしい出来栄え!?

発射30秒前!



ロケット発見



中村さんいつもお世話になってます。



次回こそ
100mオーバーを
目指そう!

順位	氏名	地区	飛距離
1位	里見虹亜さん	綱島	95m80cm
2位	鈴木啓太さん	綱島	94m40cm
3位	堂下ひなたさん	樽町	93m80cm

フォトラリーで園内探検

昼食後は「フォトラリー」を実施。ほぼ園内全体に散らばったシンボルを探したくさん歩いたその先にはいろいろお楽しみが待っていました。

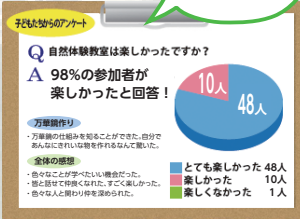
さてどう回るかな？



こっちから行くほうが…



楽しかったかな？



ホテル館発見！



お待ちしておりました！



いろいろな体験をして充実した一日だったようです。

絶対また来る！



§2 デザイン部門

入賞作品



賞	受賞者
港北区長賞	菊田晃希さん
ふるさと港北ふれあいまつり実行委員会会長賞	幸崎源典さん
港北区青少年指導員会長賞	金城夏苗さん
しんつなしま賞	加藤偉月さん

斬新なデザインに投票をした子どもたちも興味津々な様子。

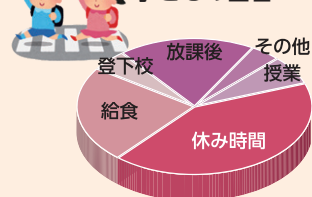
出品作はいずれも子どもたちの自由な発想が発揮された作品群でした。

港北青指記念号特別企画

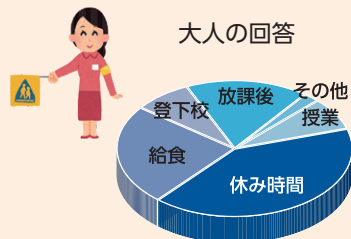
今号が50号ということで、港北青指も初号発行から四半世紀が経ちました。この25年の間に、子どもたちの生活や考え方も結構変わったのではないかと思います。そこで学校生活に関わるアンケートを子ども（自然体験教室に参加してくれた小学生）、大人（青少年指導員や学校の先生）に行いました。同じ質問で、大人の方には小学校に通っていた当時を思い出して回答していただきました。以下のグラフ、表で左が子ども、右が大人の結果です。比べてみると、今と昔の違いが表れているところもあり、大変興味深いですね。

Q1: 学校で一番好きな時間は何ですか / 何でしたか？

子どもの回答



大人の回答



子どもと大人の結果がほぼ同じになりました。休み時間と給食で6割以上になっています。少数ですが、授業が一番好きと回答された方もいます。素晴らしいですね。その他の回答は、保健室にいる時間などがありました。

Q2: 好きな科目は何ですか / 何でしたか？

順位	科目	人数
1	体育	14
2	図工	13
3	音楽	10

順位	科目	人数
1	体育	44
2	算数	30
3	図工	29

体育、図画工作はいつの年代も人気ですね。大人の2位に入った算数は好き嫌いをはっきりしているのので、このような結果になったのかなと思います。私も算数は好きでした。

Q3: 将来なりたい職業は何ですか / 何でしたか？

順位	職業	人数
1	プロスポーツ選手	7
2	ユーチューバー	6
3	会社員・医者・漫画家・イラストレーター	4
その他	ディズニーのダンサー、暗号解読者、女優	

順位	職業	人数
1	学校の先生	34
2	プロスポーツ選手	23
3	会社員	16
その他	パイロット、CA、政治家、映画監督	

昔は堅実な職業に就きたい人が多く、今はユーチューバーなど自分を表に出す職業が人気のようです。

その他と回答する人が多かったので、その他の回答からいくつか取り上げてみました。ディズニーのダンサーなんて夢があったといいですね。ぜひ実現してほしいです。

Q4: やっている習い事は何ですか / 何でしたか？

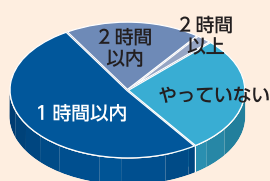
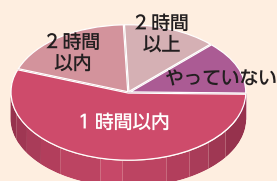
順位	習い事	人数
1	水泳	25
2	塾	24
3	ピアノ	23

順位	習い事	人数
1	塾	77
2	ピアノ	74
3	そろばん	66

(その他複数回答あり)

昔はみんなそろばん通ってましたね。塾とピアノは、今も昔も多くの人が習っているとの結果でした。その他の回答を見ると、昔は習字などの勉強系、今はテニスや体操などのスポーツ系が多いようです。

Q5: 学校以外で勉強はどれくらいしていますか / していましたか？



1時間以内がどちらも多い結果となりました。やはり集中力が持つのがそれくらいということでしょうか。昔のほうが、やっていない人が多いという結果が出てしまいました。

Q6: 好きな給食は何ですか / 何でしたか？

質問の回答を報告する前に、日本の学校給食の歴史についてちょっと触れておきたいと思います。

学校給食は、日本の児童の健康と教育において重要な役割を果たしており、その内容や取り組みは時代とともに変化しています。

明治22年の山形の小学校で行われたものが始まりとされています。その後戦時中は一時中断されましたが、戦後の復興に合わせて昭和20年頃から広く実施されるようになったようです。

その後、学校給食のメニューは多様化し、栄養バランスが考慮された食事が提供されるようになりました。現在では、地元の農産物や食材を活用した学校給食が推進されており、横浜においても市内産の大根やキャベツを利用したメニューが提供されています。地元ゆかりの牛乳を使用した誰もが知っている有名アイスクリームが給食として出たとか出ないとか。

さてアンケートの結果に戻しましょう。この質問の結果は年代別に整理してみました。

順位	子ども	30代	40代	50代	60代以降
1位	揚げパン	わかめごはん	揚げパン	揚げパン	カレー
2位	カレー	カレー	カレー	ソフト麺	揚げパン
3位	チリコンカン	ソフト麺	ソフト麺	カレー	くじらの竜田揚げ
	チーズパン				
	シチュー				
	コロケ				

揚げパン、カレーは昔も今も給食の定番というところでしょうか。年配の方は、くじらの竜田揚げが印象深いメニューのようですね。ソフト麺も特徴的なメニューと言っていいてしょう。神奈川でソフト麺の提供が始まったのが1967年のようなので、70代の方は知らないかもしれません。ここには掲載していませんが、20代以下の方の回答にも上がってきていないということは、その頃にはもうなくなってしまったということでしょうか。逆に若い世代にはチリコンカンが人気になっています。年配の方から見たら、それ何？というメニューかもしれません。他にも年代によって特徴的なメニューがあるみたいなので、思い出してみたいかならうか。

【アンケート回答人数 子ども:65人 大人:194人】

ふるさと港北ふれあいまつり

令和5年11月25日(土)に横浜アリーナにてふるさと港北ふれあいまつりが開催されました。横浜アリーナでは2回目の開催となりましたが、今年は天気も良く、最終入場者数は約25,000人だったそうです。ステージでは歌やダンスのパフォーマンスが行われ、会場内外に多くのブースが出店されていました。参加された方はどこに行くか楽しそうに回っていました。

ペットボトルロケットの体験

昨年に続き、ペットボトルロケットの体験を行いました。ペットボトルに水を入れず空気のみで飛ばす体験で、水を入れなくても勢いで飛ぶため小さい子は音にびっくりしていましたが、前の子が飛ばすのを見て自分の番が来ると指導員の説明に従い空気を入れてスイッチを押し飛ばしました。

それほどの混乱もなく大人から子どもまでみんな楽しんでくれました。

何回も体験しにくる子どもや、興味をもって体験してくれる大人の方も多くいらっしゃいました。



全市統一行動キャンペーン

ふるさと港北ふれあいまつりの会場内で全市統一行動キャンペーン活動を実施しました。

11月は「子供・若者育成支援強調月間」であり、横浜市青少年指導員統一行動標語「子どもの笑顔は社会のため」と、青少年指導員の活動をPRすべくキャンペーンを行いました。

天気にも恵まれ、多くの方にご来場いただきました。活動啓発のチラシやボールペンの配布をしながら啓発活動を行うことができました。



編集後記

港北青指も今回で50号という大きな区切りを迎えました。以前に港北青指の変遷は紹介させていただきましたが、いろいろなことがありました。コロナ禍でイベントが開催できず発行が危ぶまれたこともありましたが、毎年継続して発行してこれたことは、これまで港北青指に関わってこれた多くの方々の努力があったからこそその結果と思っています。次は100号発行に向けて、更なる一歩を踏み出していこうと思います。(H.M.)